

授業科目名	解剖学（組織学）	担当教員	教授 大谷 浩 教授 藤谷 昌司
開講年次・学期	2年後期	必修/選択	必修
開講形態	講義・実習	時間数/単位数	60時間
授業概要			
<p>組織学では、原則的に講義に続いて実習が行われる。組織・細胞レベルで人体の構造を理解するのみならず、生理学や生化学などで学ぶ知識とも関連づけて、有機的かつ総合的に理解するよう進める。1年生の最後に、細胞の基本的構造、組織の構成要素、染色法などの基礎項目について、そして四大組織に関する総論を勉強した。同様に、各器官系の組織に関する概説を受講した後、実習で組織切片のバーチャルスライドをタブレットにて観察し、スケッチを通して各器官の組織構造に対する理解を深める。また、指定された教科書および図譜を利用して実習を補う。組織学は内容も豊富であり、病理学などの臨床基礎医学を学ぶ上で必須の基礎となるため、日々の着実な学習が望まれる。</p>			
G I O（一般目標）			
<p>人体の構造を機能と関連づけてさらに深く理解するために、ミクロ的視点（組織・細胞レベル）から構築様態を認識するとともに、組織標本の光学顕微鏡（光顕）的および電子顕微鏡（電顕）的観察能力を養う。</p>			
S B O（行動目標）			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞の基本的構造を光顕的および電顕的に説明する。 2. 各組織の構成要素を顕微鏡的に理解し、組織全体の構成を説明する。 3. どのような組織が如何に組み合わせられて各器官や臓器が構成されているのかを説明する。 4. 組織・器官・器官系の組織学的構成を機能と関連して説明する。 5. 染色法について理解し、各組織標本の染色について判別、説明する。 6. 染色法、組織学的手法、免疫組織学的手法など、標本作製の手技について説明する。 7. 組織標本を観察して所見をスケッチし、構成要素を同定できるとともに、その組織学的特徴を記述する。 			
成績評価の方法			
<p>スケッチの内容、筆記試験、組織標本を使った実習試験の結果により、上記目標の到達度を判定し、評価する。</p>			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
<p>指定図書 藤田尚男、藤田恒夫（原著）：標準組織学総論・各論（医学書院） 岩永敏彦他：カラーアトラス組織・細胞学（医歯薬出版）</p> <p>参考書 ☆Bloom & Fawcett: A Textbook of Histology（Saunders） ☆Di Fiore et al.: New Atlas of Histology（Lea & Febiger）</p>			
コア・カリとの関連			
<p>C-2-1)細胞の構成と機能 C-2-2)組織・各臓器の構成、機能と位置関係 D 人体各器官の正常構造と機能(、病態、診断、治療)</p>			